

### 長崎三菱職工 減員結果

#### 強制の形跡 第二次豫

三菱長崎造船所で職工減員中止を共に職工の職員を討つた結果二月末迄に減員した職工数は三千七百二十九名で、内中三百八十六名は反期を過ぎて、自願から減員し、他は自ら退場を申出た形式となつて特別手当を給與したのではあるが必ずしも自ら希望して退場したのはかなりではなく、退職を強いられたものも少なくない。指査を怨んで居るものも少なくない。現に此の第一次減員は、後述して同造船所の二月末現在職工数は一萬三千六百三十二名となつて居るが之れとて、更に第二次の大減員がは必ずや更に第二次の大減員があるたうと懸念されて居る。

▲退職手當と奨励 長崎縣にては今回退職せる三菱長崎造船所職工中二千二百五十六名の木職人が多額の退職手當金を携帶歸郷せるに依り此際之を浪費せしめざる様各島郡町村長に向け進言を發し同等に貯金の奨励生産又は消費組合等の設立を極力奨励する事となる。

### 製鐵所への厚板註文を 呉に廻すとの虚報で

#### 殺氣立つた第二厚板 葛生鋼材部長は云ふ 絶対に失業者を出さぬ

製鐵所の職工は失業の憂を感ずる者五十名に達するに及ぶ。此は官製労働同盟會では此が問題と見做し、春季皇座祭を期して一大示威運動を起さんとする。折角此の厚板の注文を討つに忍びず、八幡製鐵所第二厚板の注文を呉に廻さしめ、失業者の發を緩和すべく努めてゐると傳へられた。八幡製鐵所第二厚板工場従業員は俄に殺氣立ち、失業の憂を及ぶ。此の注文は、自下從部員に對し此の注文は全然事務無視で注文は三月分限りあるから安心して注文はすべく申渡した。部長は、此の注文でも失業者の出ることに非常に苦心してゐるので、十一月は補助給をより多く發給し、職工其他の進言中止に依る作業の開放を補助方針らしい當所の注文も、以上を自來減員した事になる。

#### 八幡製鐵の淘汰

八幡製鐵所では不況が甚だしく、自來淘汰を進行してゐる。昨年四月十六日東京製鐵所八幡工場委任管理後、既に千八百六十名を淘汰して、四月十六日現在八員は一萬八千三百五十七名に達してゐる。現在三月十八日では一萬六千四百九十九名に減じてゐる。三月一日から十日間採用能かに五名に對し、三月十日現在従業員一萬六千六百九十六名を減して、比較せば百九十九名を減してゐる。この勢を以てせば四月末までに百五十餘名は減員するものと推測されるので、その結果として一ヶ年間に二千名を自然淘汰した事になる。